

Fuji Champion Race Series Round 2

2023.5.3 SAT - 14 SUN

FCR-86BRZ RACE

FCR-Vitz

Round 1



開幕戦を迎えたFCR-86BRZ RACEとFCR-Vitzは、旧型の86・BRZと、すでに生産は終わってしまったVitzだが、両車ともにモータースポーツではお馴染みのマシン達で、まだまだ現役で楽しく走れるということもあり、合わせて24台のエントリーとなった。土曜日朝の予選は雨の中行われ、FCR-86BRZ RACEで総合のトップタイムを出したのは#312埼玉自動車大学校MS86 松本晴彦2'14.771。フロントローには#338 MSG Racing 角谷昌紀2'16.493で並ぶ。FCR-Vitzでは#50 NUTEC☆制動屋おうちの買い方Vitz 三浦康司の2'25.483がトップ。2番手には#333 ワコーズ PG青柳ヴィッツ 浅見大志2'26.757が続く。

決勝は、11:35のフォーメーション開始時にもかなりの雨量が落ちている状況の中でも無事にスタートが切られ、#312松本がトップでTGRコーナーに飛び込んでいった。その後ろではオープニングラップから2番手争いの熾烈な争いになるが、1周目を終えてホームストレートに戻って来たのは、トップが#312松本、2番手に#338角谷の順。その後ろの3番手争いは毎周に渡って、

ポジションが入れ替わるバトルが続いた。トップ争いは3番手以降と大きく差をひろげ、6周目に#338角谷がトップを奪った。その後も激しいバトルが続き、最終ラップのダンロップコーナー入り口で#312松本がトップを奪い返し0.3秒差で10周の決勝を制した。2位には#338住谷、3位には予選3番手から一時は7番手に落としたものの巻き戻した#904 PGK小川R BANDO H86青柳貴明という結果。FCR-Vitzでは#50三浦がオープニングラップから2位以下を大きく引き離し、後続との差を30秒以上の大差をつけ優勝。2位には予選5番手からポジションを上げた#96富田商事Vitz 富田成俊がレース参戦2年目で初表彰台。3位には、今回が初レースの19歳#420 STU☆NUTECヴィッツ制動屋 小尾夏月が嬉しい表彰台。レース後各クラス優勝ドライバーのコメント。86BRZ #312松本「かなりの雨量でちょっと踏むとズルッと滑っちゃうし、角谷さんとのバトル、とても大変でした」Vitz #3三浦「雨は得意なんです。後ろも離せてマシンもすべて調子よく、会心のレースが出来ました」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト FCR-86&BRZ RACE

Rank No.	Name
1	312 松本 晴彦
2	338 角谷 昌紀
3	904 青柳 貴明
4	101 伊藤 幸佑
5	26 渡邊 敏康
6	33 米田 利唯



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト FCR-Vitz

Rank No.	Name
1	50 三浦 康司
2	96 富田 成俊
3	420 小尾 夏月
4	7 鈴木 陵太
5	51 鯉江 保秀
6	223 湯浅 辰也

N1500/N1400/N1000

Audi A1 Fun Cup

Round 1



今シーズンも全3戦で競われるこのカテゴリーも開幕戦を迎えた。土曜日に雨の中行われた予選で総合トップタイムを出したのはN1400クラス#21 DLμNUTECスターレット 大竹直で2'15.933。2番手には#26 すぐるのスターレット サイトウカズミ 2'17.038。Audi A1クラスでは総合7番手の#110 Bulls Audi A1 近藤匠 2'24.663でクラストップ。デミオクラスでは総合21番手の#75 DoEng.デミオディーゼル 西山隆が2'31.641でクラストップ。N1000では総合25番手#54 フランケンズヴィッツ 半田健一郎が2'32.681。Beetle Fun Cupは#16 Freem VW Fun Cup 斉藤浩徳 2'38.054。N1500では#91 vitz NCP91 犬飼祐揮 2'40.486となった。

決勝レースの時に断続的に雨が降り、完全にウェット状態。スタートでは#21大竹がトップを守りそのままTGRコーナーへ。その後ろでも各マシン滑りやすい路面に無理はせずに綺麗な隊列になりTGRコーナーを通過するが、続く100Rやアドバンヘアピンで数台がスピン、排除のためにSC導入となった。3周目にSCが解除されリスタート、各マシン綺麗にTGRコーナーを通過し、トップを守る#21大竹の後ろでは激しい2番手争いが繰り広げられ、その

隙に逃げる#21大竹。Audiも#110 近藤が徐々に2番手以降との差を広げる。レース後半、N1400、Audiクラスは上位陣に変動はないものの、デミオクラスでは3台がトップ争いが続き、ラストラップでクラス3番手スタートの#76 ドウエンエンジニアリング・デミオ 池島実紅がトップに立ちそのまま優勝。各クラス優勝ドライバーは、N1400 #21大竹「この開幕戦、今年は綺麗に決めることが出来ました。SC入ってリスタートもあったのですが、思っていたより後ろも来なかった。この調子で今シーズンも頑張ります」N1000 #54半田「スタートを失敗しちゃいました。その後は何とか上手く抜けられたのですが、前半はドキドキでした」デミオ#76 池島「初めてこのカテゴリーに参戦させていただいたのですが、他のクラスの方々と絡み方が難しかったです」Audi A1 #110近藤「N1400の方々とマシンの特性が全く違うので、レース中での絡み方がなかなか難しかったです」Beetle #16 斉藤「このマシン自体乗るのも2回目ですさらに初めてのウェットでした。ステアリング周りの操作が慣れないと難しかったです」と語った。



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	21 大竹 直
2	26 サイトウ カズミ
3	3 山田 大輔
4	2 小野田 篤士
5	84 竹田 幸一郎
6	5 水谷 明彦



Winner



2nd



RESULT リザルト N1000

Rank No.	Name
1	54 半田 健一郎
2	48 河合 宏太



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト DEMIO Race

Rank No.	Name
1	76 池島 実紅
2	34 常盤 岳史
3	75 西山 隆
4	81 風間 深志



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト Audi A1 Fun Cup

Rank No.	Name
1	110 近藤 匠
2	105 森 花海
3	108 野田 望
4	109 Mark Sekiya
5	102 森 慎一
6	104 飯島 宗久

FCR-VITA Round 1



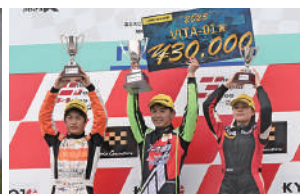
Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト FCR-VITA

Rank No.	Name
1	470 徳升 広平
2	35 上野 大哲
3	114 翁長 実希
4	17 三浦 愛
5	7 有村 将真
6	32 兒島 弘訓

KYOJO CUP Round 1



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト KYOJO CUP

Rank No.	Name
1	17 三浦 愛
2	86 永井 歩夢
3	114 翁長 実希
4	337 斎藤 愛未
5	15 RINA ITO
6	109 金本 きれい

開幕戦を迎えたFCR-VITA、土曜日朝の予選はウェットコンディションの中で行われ、悪天候の中でも安定したタイムを出し、ポールポジションを獲得したのは2連覇中のシリーズチャンピオン#470 フジタ薬局アポロ電工M/T 徳升広平2'17.168。フロントローには#35 恒志堂レーシングCLASS VITA 上野大哲 2'18.519が並んだ。

雨の降り方が弱くなり、天候が一時的に回復したところで、決勝のスタートが切られた。好スタートを見せてTGRコーナーをトップでクリアしたのは、#35上野。その背後には#470徳升が続き、3番手以降はコースアウトなどで、順位が入れ替わり混戦が続く。ダンロップコーナーの進入で再び#470徳升が前に出て、オープニングラップをトップで戻って来た。#35上野が2位で続き、3番手争いの熾烈なバトルが続くが、レースが進むにつれ徐々に雨量が増えて、各マシンのラップタイムも徐々に落ちてくる。後半になると、トップ#470徳升と#35上野の差も4秒ほどになり、3番手争いとは、さらに10秒以上の差を広げた。10週の決勝は#470徳升のポールトゥウィン、2位には#35上野、3位には予選5番手から追いつけてきた#114 RSS VITA 翁長実希が入った。レース終了後#470徳升は「昨夜はチームが徹夜でマシンを仕上げてくれました。良い結果になって本当に皆に感謝です。雨量が増えてくると上野さんが速いと思っていたので前半でマージンを取る作戦が上手くいきました」と語った。

KYOJO CUPも開幕戦を迎え、新たに7人のルーキーが参戦、華やかな開幕戦となった。日曜日の予選でポールポジションを決めたのはカート経験は豊富だが今回4輪レース初出場、限定Aライセンスを獲得したばかりの若干16歳、#225 KTMS VITA 富下李央菜 2'04.554。2番手には昨シーズンのチャンピオンで#114 RSS VITA 翁長実希2'04.645が並んだ。

決勝は徐々に雨量が増す中、スタートが切られ好スタートを見せた#114翁長がTGRコーナーアウト側から前に出て、トップに立つものの、悪天候でスピンやコースオフが続出し、2周目にマシン排除のためSCが導入。ここ時点で#17 Team M VITA 三浦愛が10番グリッドから怒涛の追上げをみせ、2番手にポジションアップ。7周終了でSCがピットに入り、リスタート。#114翁長と#17 三浦の激しいトップ争いは、8周目に#17三浦、9周目は#114翁長がトップでコントロールラインを通過するも、9周目のSupraコーナー立ち上がりで#114翁長が痛恨の単独スピン。すぐに立て直したが4番手に順位を落した。その後は#17 三浦がファステストラップを更新しながら快走。トップでチェッカーを受けた。2位になったのは#86 Dr.DRY VITA 永井歩夢、3位に#114翁長という結果。

レース後#17三浦は「昨日のFCR-VITAでは失敗したのでその反省点を生かそうと臨みました。雨の鈴鹿以来のKYOJO優勝、今年は自分のチームを立ち上げてその初戦で勝てたことはとても嬉しいです」と語った。

BMW & MINI Racing Round 2



5カ所のサーキットを転戦して行われるBMW&MINI Racingシリーズは今回がRound2で第3戦・第4戦となる。予選は土曜日の午後に行われ、第3戦のスターティンググリッドが決まる。第4戦のグリッドは第3戦の結果の上位60%のリバースグリッド方式となっている。予選でトップタイムを出し、第3戦のポールポジションを決めたのは開幕から2連勝中のM2CSR#25 TECK-MeWell M2 CS Racing 水元 寛規 2'05.322。MINIのJCWクラストップは総合8番手の#57 TEAM Abemotors 天田亮 2'09.680。CPSクラスは総合13番手の#32 IDIアウティスタMINI F56CPS 川福健太2'17.635という結果となった。

第3戦決勝は小雨になったものの、まだ路面コンディションはウェットの状態でスタートが切られた。BMW勢はトップの#52水元を先頭に綺麗にTGRコーナーに進入。MINIも両クラスともトップは譲らず、その後はM2クラスとCPSクラスはトップが後続との差を広げ、JCWクラスでは激しいトップ争い。5周目のストレートで#1 木村がストレートでトップを奪う。M2CSRは#25水元が3連勝で総合優勝。

各クラス優勝ドライバーのコメントM2 #25 水元「レースの女神様がこっちを向いてくれていたみたいです。雨でも速さを発揮できて良かったです」JCW #1木村「ウェットからどんどん乾いていったのでタイヤマネジメントが大変でした」CPS #32 川福「混乱を上手く切り抜けられるように慎重にいきつつもポイントを見極めて攻めるようにと考えながら走っていました」と語った。

第3戦



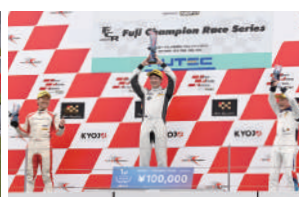
Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト M2CSR

Rank No.	Name
1	25 水元 寛規
2	55 石井 一輝
3	78 服部 文雄
4	47 舟越 裕介
5	70 片山 剛
6	19 奥村 浩一



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト JCW

Rank No.	Name
1	1 木村 建登
2	9 平田 雅士
3	57 天田 亮
4	500 Charlie Cooper
5	34 MASA



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト CPS

Rank No.	Name
1	32 川福 健太
2	52 古田 聡
3	3 いたう りな
4	36 定村 吉高
5	73 ジュンクーパー
6	54 菊池 秀樹

第4戦のポールポジションスタートは#47 未来都市開発 砂子塾M2 CS Racing 船越裕介。JCWは#57天田、CPSでは#54 神奈川秦野カーボイス F56CPS 菊池秀樹となった。

決勝レースは本降りとなってきた中、リバースグリッドのため、スタート直後から無理はせず、徐々に順位が代わる展開で、レース中盤の6周目に3連勝中のM2 #25 水元がトップに立ち、JCWも4周目に#57 天田がトップに。CPSでも#52川副が5周目にトップとなった。後半になりさらに雨は激しく

なってきたが、総合・M2CSRクラストップで"25水元が第4戦の最初にチエッカーを受けた。JCWでは#57 天田、CPSは#32川福、という結果。

各クラス優勝ドライバーコメント#25水元「マシントラブルで電子制御系が効かず大変なレースでした。次回までにしっかりと直します」JCW #57天田「マシンを信じて負けるはずがない。という気持ちで走っていました」CPS #32川福「あのポジションからだ無理かな?とも思っていたましたが、上手くいきました」と語った。

第4戦



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト M2CSR

Rank No.	Name
1	25 水元 寛規
2	55 石井 一輝
3	47 舟越 裕介
4	70 片山 剛
5	101 高橋 裕史
6	19 奥村 浩一



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト JCW

Rank No.	Name
1	57 天田 亮
2	9 平田 雅士
3	1 木村 建登
4	34 MASA



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト CPS

Rank No.	Name
1	32 川福 健太
2	52 古田 聡
3	3 いたう りな
4	12 小林 哲男
5	30 白戸 次郎
6	190 恩塚 一将

Inter Proto Series Round 1-2 Gentleman Driver



IPSシリーズが開幕を迎え、ジェントルマンクラスは土曜日に予選・第1戦、日曜日に第2戦が行われた。土曜日の朝の予選では、ベストタイムが第1戦のスターティンググリッド、セカンドベストタイムで第2戦のグリッドが決定する。ポールポジションを決めたのはIPS_G_E#32 NETZ NOVEL ME 永井秀貴2'01.224。IPS_G_Gは#7 J-POINT 勝又隆二の2'02.584。SUPRAでは#45 NTP SUPRA GT4橋本達宏が2'04.872でトップからのスタート。ウェットコンディションの中で行われた開幕戦ではSCスタートとなり3周目にSCがピットロードに入るとそこから各マシン綺麗な隊列でTGRコーナーに消えていく。トップを守っている#32 永井はコンスタントに後続のマシンを引き離し、上位3台は単独走行状態。その後ろでは4番手争いが繰り広げられているが、9周目に#32永井がミスをするとその隙に#37大蔵がトップに立ち11週の決勝は#37大蔵が優勝した。2位には#32永井、3位はGクラストップの#7 J-POINT 勝又隆二が入った。SUPRAは6周目に#39 P.MU RACING SUPRA ト部治久がトップを奪い優勝した。

レース後各クラス優勝ドライバーは総合・Eクラス#37大蔵「ペース的には永井さんに追いつけませんでしたが残ったモン勝のレースでした」Gクラス#7勝又「前と後ろが離れていたこの天候でスピンをしないように気を付けて走りました」SUPRA#39ト部「橋本さんの走りが苦しそうだったのでチャンスがうかがっていました」と語った。

日曜日の第2戦はドライコンディションでのスタートとなった。今回は上位3台がバトルをする後ろでは激しい4番手争い、6周目にかかるころには2番手争いが激しくなりその隙に逃げる#32永井。7周目のTGRコーナーからコカ・コアコーナーで2番手争いの2台のサイドバイサイド、そして#55 人馬一体ドライビングアカデミー 川田浩史が前に出て2位のポジションに。その後ろではGクラストップをかけた#7 勝又が10周目に#71アキランドIPS大山正芳を抜き総合3位、クラストップに立つ。12週の決勝は#32永井、#55川田、#7勝又の順でチェッカーを受けた。SUPRAは最後までバトルが続いたが、#45橋本が逃げ切り優勝した。

レース後各クラス優勝ドライバーは総合・Eクラス #32永井「今日は絶対に生き残りをかけてコース内に留まろうと思い続けて走りました。チームの皆様に感謝です」Gクラス #7勝又「最高のレースが出来ました！」SUPRA 橋本「昨夜はメカニックさんたちが一番遅くまで残ってセッティングしてくれていたのだから何とかそれに報おうと走っていました」

Round 1



RESULT リザルト IPS-E

Rank	No.	Name
1	37	大蔵 峰樹
2	32	永井 秀貴
3	44	山口 達雄
4	55	川田 浩史
5	8	斎藤 愛未
6	3	FLYING RAT



RESULT リザルト IPS-G

Rank	No.	Name
1	7	勝又 隆二
2	71	大山 正芳
3	16	渡邊 久和
4	96	末長 一範
5	88	八木 常治
6	27	山崎 哲之



RESULT リザルト SUPRA

Rank	No.	Name
1	39	ト部 治久
2	45	橋本 達宏
3	38	豊島 豊
4	31	兼重 和生

Round 2



RESULT リザルト IPS-E

Rank	No.	Name
1	32	永井 秀貴
2	55	川田 浩史
3	8	斎藤 愛未
4	3	FLYING RAT
5	37	大蔵 峰樹
6	44	山口 達雄



RESULT リザルト IPS-G

Rank	No.	Name
1	7	勝又 隆二
2	71	大山 正芳
3	96	末長 一範
4	16	渡邊 久和
5	88	八木 常治
6	27	山崎 哲之



RESULT リザルト SUPRA

Rank	No.	Name
1	45	橋本 達宏
2	39	ト部 治久
3	38	豊島 豊
4	31	兼重 和生

Inter Proto Series
Round 1-2
Professional Driver



IPS Proクラスは土曜日の予選、日曜日が第1戦・第2戦を連続で決勝を行うスケジュール。土曜日の予選はウェットコンディション中、SUPRAがTop3を独占。#31 SNK SUPRA 石浦宏明1'57.214でトップ。IPクラストップは#7 J-POINT 野尻智紀1'58.429、#37 キーパー号 福住仁嶺1'58.452、#32 NETZ NOVEL ME 小高一斗1'58.689と続く。CCS-Rは#46 NTP CCS-R 山内英輝2'01.784。

決勝のグリッドはIPSの集団が前方からのスタートで、空きグリッドが設けられSUPRA、CCS-R勢。ローリングスタートでSCが2周先導し、3周目に実質上オープニングラップとなった。トップでコントロールラインに戻って来たのは#7野尻、その後ろを#37福住が追いかける。その後、上位陣は徐々に1秒ほどの間隔になり7周のレースは#7野尻が逃げ切った。2位に#37福住、3位#32小高という結果。

続く第2戦では、小雨になり、ローリングラップではタイヤを冷やすために水

の多い所を選んで走るマシン、逆に少ない所を選び温める作戦に出るマシンなど各チーム天候予想と作戦が真逆に出ている。その中スタートが切られ、#7野尻がトップで1コーナーに。オープニングラップで5番手スタートの#3阪口が4番手に上がるも翌周には#16Ronnieが4番手を奪う。#7野尻は逃げる体制になるがその後ろでは激しい2番手争いが繰り広げられ、2番手以降に5秒の大差をつけた#7野尻の2連勝。2位は#16Ronnieが0.03秒という僅差で先にチェッカーを受け、3位が#3阪口という結果になった。SUPRAは#31石浦が逃げ切り優勝した。

レース後の優勝ドライバーコメント#7野尻「開幕戦、最高のスタートになりました。今回上手くいったのは予選のタイヤ選択だったと思います。見た目はタイムを離していったように見えたかもしれませんが、ファステストラップも取れなかったしけっこう大変でした」SUPRA #31石浦「ドライだったら坪井さんの速さにならなかったかと思います。今回は雨に助けられました」

Round 1

IPS



Winner



2nd



3rd

RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	7 野尻 智紀
2	37 福住 仁嶺
3	32 小高 一斗
4	27 Giuliano ALESI
5	16 Ronnie QUINTARELLI
6	3 阪口 晴南

SUPRA



Winner



2nd



3rd

RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	31 石浦 宏明
2	38 坪井 翔
3	45 片岡 龍也

Round 2

IPS



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト IPS

Rank No.	Name
1	7 野尻 智紀
2	16 Ronnie QUINTARELLI
3	3 阪口 晴南
4	37 福住 仁嶺
5	55 宮田 莉朋
6	32 小高 一斗

SUPRA



Winner



2nd



3rd



RESULT リザルト SUPRA

Rank No.	Name
1	31 石浦 宏明
2	38 坪井 翔
3	45 片岡 龍也